

柔道整復師の史的研究（近・現代）



【池袋キャンパス】 ヒューマンケア学部 柔道整復学科 講師

湯浅 有希子 Yuasa Yukiko

URL : [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

キーワード : 天神真楊流柔術・柔道整復術・柔道整復術の技術移転



研究の概要

SDGs 目標 3 : すべての人に健康と福祉を

SDGs 目標 4 : 質の高い教育をみんなに

現在、高齢化社会を背景に柔道整復師の人数は増加傾向にあるが、柔道整復師の熟達者の高齢化と整形外科医の充足により、柔道整復師が骨折や脱臼の医療固定具を迅速かつ正確に成形できる機会が激減している。臨床経験豊富な熟達者の減少と、若手柔道整復師への技術伝承の問題は、臨床現場や教育現場に影響を与えている。熟達者が臨床の現場を離れる前に、その知恵や経験を可能な限り保存・蓄積し、その成果を正確に多くの柔道整復技術を学習する人たちに伝承する新しい手段の開発が、必要かつ急務である。

固定技術の保存・再現について歴史を振り返ると、これまで近現代における柔道整復術の歴史的史・資料は文字、絵、写真等に多く依存してきた。これらの史料は貴重であるが、2次元の史料で伝わり切れない部分がある。私たちは既に江戸～大正期までの歴史研究および固定具の史・資料の収集は文献レベルで可能な限り入手しているが、これに加えてデジタルデータによる保存・再現のあり方研究をおこなう。私たちはこれまで学会誌や柔道整復師の業界情報新聞にてその成果を発表しており、基礎研究は概ね整っている。

私たちは熟達者の技量と経験に左右される医療用固定具作成技術を、デジタルファブリケーション（以下、DF という）により保存・再現する研究を 2024 年度から開始した（図 1）。熟達者の実践技術を、DF を活用することにより実践的な模擬授業を通じて学習者へ技術移転をすることを検証する。

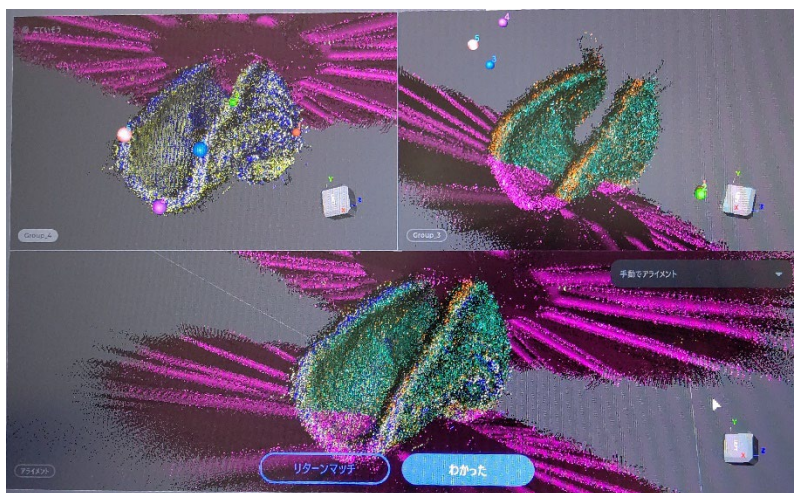


図1 デジタルデータの保存の様子

実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

本研究を通じ、デジタルファブリケーションを援用した固定具の作成技術による模擬授業で得た知見は、将来的に臨床の場における若手柔道整復師への技術移転や教育研修、あるいは伝統的な技術の伝承や、その分析研究など広く適用されるものと考ええる。

また、熟達者の技術をデータに保存することで、多くの人がデータを 3D で再現することができ、伝統的な技術の保存・蓄積に裏付けられた新たな固定具作成の技術の開発が可能となると考えられる。

これにより、若手柔道整復師に安定的な研修環境、研究環境を提供し、国民全体の健康保険の向上に寄与することが期待できる。

知的財産・論文・学術発表など（詳細は右上 QR コードの教員紹介からご確認ください）

- ・「柔道整復師 接骨術の西洋医学化と国家資格への歩み」
- ・柔道整復の誕生—1911-1920 年における柔道整復の法制化を巡って

【日本私立学校振興・共済事業団】

- ・（2025 年度 若手・女性研究者奨励金）「3D プリンターを活用した医療用固定具作成の実技授業への導入」